

2 工 芸 部

2, 1 業務概要

- 垂水白土を利用した透光性磁器としての原土配合、泥彩化粧土等について試作研究をしたが、何れもまだ充分な成果を納め得ない。
- 苗代川の洗寿宮工場に保管されている往時の李朝系鉢数種の石膏型を復元再生して活用供した。
- 今年度は依頼図案が多く、徳利8種、花器55種、湯呑14種、桜花スケッチ8種等形、絵付用の意匠を配布し、その他手拭図案4種、観光物産館意匠相談室備付用陶磁器図案63図を作製した。
- 今年度も県、市、組合の共催で薩摩陶器新作発表会が開催され審査に当たったが、昨年度に比べて遙かに優秀な作品が多く、漸く業界の意欲も高まつて来たことは好ましいことであり、これが助長指導に努めたい。

業務担当者 部長 西 野 弘(兼)

寺 尾 作次郎

肥 後 盛 英

北 郷 タ メ

2. 2 試験研究

2,2,1 題目 垂水白土と天草石による透光性磁の試作について

肥 後 盛 英

前 が き

垂水白土単味では成形困難のため可塑性をあたえとともに透光性を安定化するために天草石を添加して三角座表にもとづき試験を行つた。

実 験 方 法

垂水陶石1号土、3号土はスタンプミルで20時間粉碎した後150メッシュの篩を通し水とを行つた。天草石は市販1級品をそのまま用いた。調合は三角座表により1号土100% 3号土100% 天草石100%で行つた。

施釉 SK7~9番、透明釉、

焼成火度 SK9~10番

焼成場所 登窯3の間、火前、酸化焰

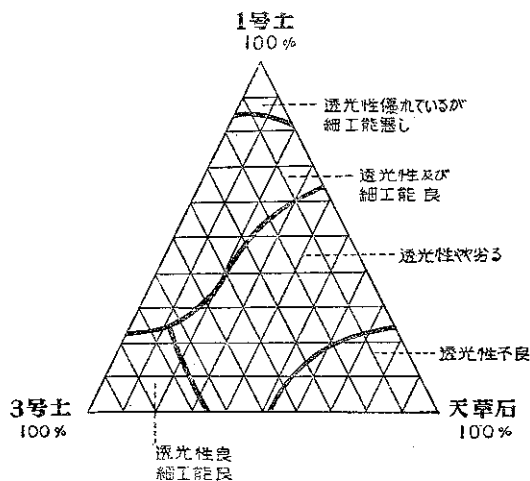
試 験 体

タテ 3cm

ヨコ 3cm

厚サ 0.6cm

粘土の細工能及び焼成品の透光性は次図のようになった。



結 び

粘土の可塑性は天草石>垂水1号>垂水3号の順となり磁化素地の透光性は垂水1号土>垂水3号土>天草石の順となるが透光性を持ち細工能にも劣らない素地は天草陶石30%以下垂水3号土70%以下垂水1号土80%以下の範囲である。

2,2,2 題目 透光性磁器用泥彩化粧土の試験

寺 尾 作次郎

〔目的〕垂水白土の透光性を利用した加飾法

〔試験の経過〕基礎生地の配合(1号垂水白土40% 2号垂水白土50% 指宿白土10%)

泥彩化粧土の配合

記 号	A	B	C
調合品名			
基礎生地土	100	100	100
酸化コバルト	7		
酸化クロム		10	
伊セ久の紅柄			7.5
呈 色	青 色	緑 色	鉄 色
品 位	良	良	良

上記3種の調合物を夫々別にポットミルでよく粉碎した泥彩化粧土を準備しておき、更に基礎生地土で20種類の鉢を仕上げて小ロクロの土に伏せ、廻しながら外側に

杓掛けをした。

模様は釘彫りと掻き落しの手法で白生地を出した。焼成はSK9番、Aは還元焰、B、Cは酸化焰で焼成したが、試体は透光性よく細い釘彫りの線も少々太目で硝子と異つた軟かい感じで模様だけ白く透けて見える。

この手法の利用価値は更に追及を要する。

2.2.3 題目 S・K6〜7番の透明釉試験

寺 尾 作次郎

〔目的〕 龍門司の窯は火前でSK8番強であるが製品の詰め方によつては火度に不均一を来し押への根にある器物の釉は半熔融になることが多いので、従来は半熔融であつても商品価値としてそれ程影響のない『葉の煎じ茶家』を焼成していたが、窯の効率を上げるため巾のある安定した釉を希望されたので試験をした。

番 号	1	2	3	4
配合品名				
指宿 バラ土	30			
松 木 灰	45			
ワ ラ 灰	25			
福 島 長 石		45	42	30
珪 石		27	27	18
石 灰 石		10	18	25
珪 目		18	13	
ロ ー 石				27
酸 化 焼 成	SK.7	全	全	全

〔焼成結果〕

- No. 1 灰青色で落ちついた釉光を呈し、ロクロ目のある白生地物に最適
- No. 2 白い失透状を呈し黒い土物に良
- No. 3 白生地は白色で落ついた光沢を生じ微細な貫入を生ずる
黒生地はネズミ志野に似た雅趣があり白象嵌等に適す
- No. 4 白生地は乳白色の落ついた光沢
黒生地は朝鮮三島釉に似て抹茶碗等に適す

2, 3 試作並びに指導

〔試作〕

今年度は大素焼2回、本焼2回を行い試作品 145点、サヤ……255点、全蓋……76点を得た。

〔指導、講習会、その他〕

- 三重県四日市市、カク本窯業株式会社の依頼により輸出向大額皿（経40糎）を400枚試作指導を行つた。
- 中小学校12校の楽焼窯に関する指導及び下飯村手打小学校の楽焼焼成の指導と窯の改造並に各種成形技法の指導を行つた。
- 工業技術院名古屋試験所第6部の内藤義兼課長を招聘して県内業者に鑄込用石膏型の講習会が本場で開催され成果を納めた。

受講者延人員 68名